

中学校特別支援学級在籍生徒を対象とした 就労支援講座の実践の経緯と展望 —南アルプス市における 支援モデルの構築に向けて—

○小田切 めぐみ
(南アルプス市役所 こども応援部
こども家庭センター 途切れのない支援担当)

1. はじめに

当市の体制整備

- ・ライフステージを通じた「途切れのない支援」
- ・「途切れのない支援連携会議」より
→中卒後の支援に課題(無所属、引きこもり、生活困窮)

県からの委託(平成26年度)

「発達障害者の思春期就労準備支援事業(3年計画)」
→中学校「自閉・情緒級」の生徒向け「就労支援ワーク」

運営の引継ぎ

障がい福祉課(～R3)→こども家庭相談課(～R6)
→こども家庭センター(R7～)

2. 就労支援ワークの概要

■ 目的

- ・市内中学校の自閉・情緒級に在籍する生徒が将来の就労について考え、働くことのイメージを持つ
- ・自己への理解を深める機会を提供する

■ 実施回数

年1回

■ 運営

こども家庭センター「途切れのない支援担当」
(保健師、社会福祉士)

2. 就労支援ワークの概要

■ 実行委員会(年3回)

- ・市内中学校の特別支援コーディネーター
(または自閉・情緒級の担任)
- ・障がい福祉課(社会福祉士)
- ・教育委員会(指導監)

■ 対象

自閉・情緒級在籍の生徒(市内中学校)

3. 就労支援ワークの実践内容及び経緯

(1) 令和4年度(参加者数:6校28名)

■ 事前講座(1時間)

テーマ「そもそも働くって何?」

アイスブレイク+グループワーク

■ 就労体験(1時間30分)

実際に就労現場に行き、各自の興味関心に応じた内容を選択、体験

■ 振り返り(30分)

感じたこと、思ったことをグループでシェア

成果

- ・仕事をするうえで大切なことは何かを考えるきっかけを提供できた
- ・作業内容が簡単すぎず難しすぎない内容で、生徒が成功体験を積むことができた

課題

- ・講座の内容が抽象的→理解につながりにくい
- ・事前講座と就労体験の関連付けが難しい
 - 単に就労体験の機会を提供するだけでは、生徒が仕事の本質的理解を促すことは困難
 - この学びを自分の将来と結びつけるのは、より困難

(2)令和5年度(参加者数:6校27名)

■思春期の発達段階

思春期＝「自分とは何か」を考える時期

→自己理解というテーマはどうか？

→国立特別支援教育総合研究所へ協働依頼

■障害のある生徒に必要な「自己理解」

「どんな仕事でも重要となる基本的な力」

「“苦手”への配慮要請を含めた多角的な自己理解」

■学校教育との接続についての検討

生徒が将来働くうえで必要となる力

現在の学校生活における学びの関連

→イメージしやすいようにポイントを整理

■本事業で扱う「自己理解」の整理

- ①自分ができる・意義を感じる・やってみたい活動
- ②苦手なことへの工夫・配慮要請の必要性
→この2点への気づきを促していく

■事業所での体験と自己理解の結びつき

協力事業所へ仕事をする際の重要なポイントについてインタビュー

→抽出された共通点を「仕事をするうえで大切なポイント」として整理

「仕事をするうえで大切なポイント」

- ①話を集中してよく聞き、何をどう取り組めばよいか内容を理解する。
- ②集中して「ていねいに」「正確に」取り組む。
- ③わからないときは質問、困った時は相談、終わったら報告する。
- ④気持ちの良い態度で人とかかわる。(気持ちの良いあいさつ、笑顔、返事、お礼とお詫びの言葉、ことばづかいなど)
- ⑤相手の気持ちを考えて行動する。

事前講座(1時間15分)

- ・体験内容の事前説明
- ・仕事理解と自己理解についての解説
- ・「自分発見ワーク」※学校編、仕事編(下図)
- ・「チャレンジ課題」学校や家庭で「はたらくこと」「じぶんについて」の振り返りの促し

自分発見ワーク 学校編

ここでは、学校編に登場する4つのポイントと照らす、自分の状況について振り返ってみましょう。

以下の4つの問題について、あなた自身の「ワーク」をつぶさに。

1. 4つの問題の感想のイメージ

自分の状況について考えてみよう			
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分

2. 4つの問題について、自分自身の感想

△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分

3. 4つの問題について、自分自身の感想

△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分

4. 4つの問題について、自分自身の感想

△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分

自分発見ワーク 仕事編

ここでは、職場編に登場する4つのポイントと照らす、自分の状況について振り返ってみましょう。

以下の4つの問題について、あなた自身の「ワーク」をつぶさに。

1. 4つの問題の感想のイメージ

自分の状況について考えてみよう			
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分

2. 4つの問題について、自分自身の感想

△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分

3. 4つの問題について、自分自身の感想

△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分

4. 4つの問題について、自分自身の感想

△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分
△自分へと相手へ	△自分から自分へ	△自分へ	△自分

就労体験(2時間※休憩含む)

■ 令和4年度の体験内容 + 以下を追加

- ・いちごの苗植え替え
- ・高齢者デイサービスでの整容補助
- ・画像編集(チラシ作成、HP作成等)

■ 体験後に事業所にて振り返り

自分再発見ワーク(仕事編)のワークシートを使用

「仕事をするときに必要なポイント」

「配慮をしてもらえて助かったこと」は何か？

「配慮してもらえて助かったこと」

- ①ゆっくり説明してもらえた
- ②口での説明だけでなく、実演してもらえた
- ③手順を簡単にわかるように説明してもらえた
- ④わからないときに、声をかけてもらえた
- ⑤仕事の説明をするときに、写真やイラストを使ってもらえた
- ⑥やる気の出る声掛けをしてもらえた
- ⑦説明を聴くときに、静かで聞き取りやすい環境だった

成果

- ・学習ポイントをわかりやすく伝えられた
- ・自己肯定感を育む一助となつた

課題

- ・集中力の課題(時間設定)
- ・生徒が自らの行動を適切に自己評価することが難しい
- ・講座と体験が別日程であったために、指導の一貫性が保たれず十分な学習効果が得られない

(3)令和6年度(参加者数:3校17名)

前年度取り組みを踏まえて検討

→就労体験に先立ち、仕事に取り組むうえでの
ポイント理解を促す導入体験の設定

■環境設定

就労支援講座 + 模擬体験(個人 + グループ)

※模擬体験は「ワークサンプル幕張版(障害者職業総合センター)」を活用

(3)令和6年度(参加者数:3校17名)

改善点

- ・活動の対象を中学1年生に絞る
- ・前年度作成したポイントの再整理
- ・講座を動画教材へ切り替え
- ・事業所での就労体験→模擬体験
 - ①ピッキング(グループ)
 - ②請求書と納品書の数値チェック(個人)
 - ③プラグタップの組み立て(個人)
- ※この中から2つを体験

就労支援講座(40分)

- ・仕事理解や自己理解の重要性と交え、「はたらくときに大切な5つのポイント」について、動画教材の中で「仕事博士」が解説。
- ・視聴後に自分発見ワークを記入

自己発見ワーク				
あてはまる表現(アーリー・ラ)を一つ選んで。				
① 仕事を集中してよく働き、 仕事熱意 をもつて。 ② 実習して、 まなづき を身につけて。 ③ 分からない時は相談、困った時は相談、困ったから相談する。 ④ 会員登録して、 じんとく をかわる。 ⑤ 終わったら、				
あてはまる表現(アーリー・ラ)を一つ選んで。 ① 仕事熱意がなくて、困難なくできそう。 ② 仕事熱意があるけれど、うつむいて、苦しそう。 ③ 仕事熱意があるけれど、苦しきもしない。 ④ 仕事熱意があるけれど、うつむいて、苦しそう。 ⑤ 仕事熱意があるけれど、うつむいて、苦しきもしない。				
アリ	オレ	ウレ	アリ	アリ
アリ	オレ	ウレ	アリ	アリ
アリ	オレ	ウレ	アリ	アリ
アリ	オレ	ウレ	アリ	アリ
アリ	オレ	ウレ	アリ	アリ



模擬体験(1時間30分)

- ・講師が活動を主導
- ・教員と事務局スタッフが「仕事をするために大切なポイント」に基づく声掛けを行う
- ・グループ作業は全員参加
- ・個人作業についてはどちらか一つを選択



工夫

→ヘルプカードを用意

困った時に援助を求められるよう促した

模擬體驗(1時間30分)

・振り返り

→体験を経て自分自身について改めて考えるための「自己再発見ワーク」に取り組んだ

自分再発見ワーク			
1. 仕事をする際、「5つのポイント」をどの程度実践できたか、思い出しましょう。↓	あてはまる記号（ア・イ・ウ・？）を1つ選んで○		他の複数は、斜線をひいて置きなさい！
質問	ア:実践が出来なくてでも、理解はできました。	イ:実践が出来たが理解はできませんでした。	ウ:実践が出来たが、楽しかった。
1. 話を集中してよく勉強し、仕事内容を理解する。	ア○	イ○	ウ○
2. 重複して、言葉を繰り返す事に気がつく。	ア○	イ○	ウ○
3. 分からない時は、確認、困った時は、自分の力で解決する。	ア○	イ○	ウ○
4. あわただしい時で、人と会話をする。	ア○	イ○	ウ○
5. 頭をさう。	ア○	イ○	ウ○
2. 课堂の中で、「感謝」をしてもらえてよかったですことを思い出しましょう。↓	あてはまる記号（ア・イ・ウ・？）を1つ選んで○		他の複数は、斜線をひいて置きなさい！
質問	ア:かなりうさぎ♪	イ:すこしうさぎ♪	ウ:うさぎはない。
1. やっくり感謝してもらえてよかったです。	ア○	イ○	ウ○
2. 答案やイラストなどを書いて、感謝してもらえてよかったです。	ア○	イ○	ウ○
3. やることについて、感謝や手本を書いてもらえてよかったです。	ア○	イ○	ウ○
4. わからぬときは、聞いてるとときに、声をかけてもらったり、感謝してもらったりしてよかったです。	ア○	イ○	ウ○
5. やる気の出る声かけをしてもらえてよかったです。	ア○	イ○	ウ○
3. 勉強になったこと、心に残ったことなどがあれば、メモしておきましょう。↓ (墨水書きで)	自分について(自分の得意・不得意など)↓		
仕事について(仕事をする際に大切なポイントなど)↓	自分について(自分の得意・不得意など)↓		
○○	○○		
○○	○○		
○○	○○		
○○	○○		

成果

- ・動画視聴や模擬体験に集中できていた
- ・自分の苦手にも目を向ける姿勢が見られた
- ・教員からも自分の進路や得意不得意を考えるきっかけになったとの意見があった
- ・教員にとっても、就労を見据えた学校段階からの取り組みの重要性や、学校における支援の可能性について理解を深める機会となつた

課題

生徒が自分の行動を適切に自己評価することの
困難さがある

(背景)

- ・支援方針に関する関係者間での共通理解の不足
- ・生徒の失敗回避を優先した過剰な声掛け

4. 今後の展望

- ・生徒が自己評価を適切に行えるような支援
(ワークシートの内容の工夫 等)
- ・学校教育との接続を強化
- ・講座を継続できる仕組みの整備
- ・事業所での就労体験の機会の提供

→今後の現実的かつ効果的な実施方法を検討